

経営改革プラン 21年度実績・病院自己評価(経営指標に係る数値目標)

【財務に係る数値目標】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	差引き	22年度計画値	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
										評価	コメント
1	経常収支比率(%)	89.9	92.7	93.6	97.4	96.6	△ 0.8	100.7	101.7	C	21年度は計画と比較して、収益面で240百万円上回りましたが、費用面で327百万円ほど超過したため、経常収支が87百万円悪化しております。この結果、20年度に比べ3%改善したものの、目標を達成するまでには到りませんでした。
2	職員給与費対医業収益比率(%)	52.7	51.5	51.2	49.2	50.9	1.7	47.0	46.8	C	21年度は計画と比較して、医業収益で247百万円(消費税抜き)上回りましたが、医師をはじめとする医療スタッフの確保に努めた結果、職員給与費で259百万円超過したため、比率は1.7%悪化しました。20年度との比較では、0.3%改善しています。
3	材料費対医業収益比率(%)	29.1	28.2	26.7	26.2	24.5	△ 1.7	25.8	25.8	A	21年度は薬品費が診療収入増に伴い増額し、診療材料費はほぼ計画通りとなり、医業収益の伸びが大きかったことから計画値を下回りました。
4	一般病床利用率(%)	86.6	86.2	86.9	86.6	87.6	1.0	87.5	88.0	A	21年度の入院患者数は、VRE院内感染が発生により一部の病棟で受入患者数を制限するなど減少要因がありましたが、延べ120,903人となり計画に比べ1,403人増加し、計画を上回りました。
5	入院患者1人1日当たり収入額(円)	42,287	44,122	43,807	46,834	46,525	△ 309	47,074	47,074	C	入院時医学管理加算の施設基準は21年8月1日に取得し、単価の上昇が見られましたが、第4四半期の単価が伸びなかったことから計画に達しませんでした。
6	外来患者1人1日当たり収入額(円)	7,885	8,571	8,679	8,679	9,690	1,011	8,679	8,679	A	外来によるがん化学療法、人工透析、放射線療法等の単価の高い患者の増加により計画値を大幅に上回りました。

【その他の指標】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	差引き	22年度計画値	23年度計画値	苦小牧市立病院自己評価・分析	
										評価	コメント
7	紹介患者数 (人)	7,023	7,670	7,537	7,900	7,774	△ 126	8,140	8,380	C	20年度は産婦人科の大幅な増加などがあったため合計で514人(7.3%)の大幅に増となった。21年度は、各診療科で堅調に推移し対前年度で237人(3.1%)増加したものの、目標数値を達成することができませんでした。
8	救急患者数 (人)	14,550	10,620	10,469	10,410	8,352	△ 2,058	10,200	10,000	B	21年度は、4月1日から苦小牧市夜間・休日急病センターが新施設での診療を開始したことにより、一次救急患者の大半を受け入れたことにより新型インフルエンザの蔓延による患者増の中、20年度実績に比べ2,117人と大幅に減少しました。 一方、救急車による搬送件数は、2,596件で前年度に比べ53件増加しており二次救急医療機関としての位置づけが明確となっております。
9	手術件数 (件)	2,121	2,230	2,381	2,300	2,562	262	2,370	2,440	A	21年度は、対前年度で181人増加し、計画より262人上回り、目標を達成しました。手術件数2,562件のうち、1,741件が全身麻酔による手術となっています。診療科毎の内訳としては、泌尿器科で138人、眼科で128人の増加が顕著となっています。

経営改革プラン 21年度実績・病院自己評価(経営効率化のための具体的な取り組み)

【医療提供の充実】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
1	外来診療体制の強化	計画的に診療ブースを増やすとともに、医療事務補助者を増員し外来診療の円滑化を図る。	21年度～	B	21年度は診療ブースを2室増やし、禁煙外来(21年4月1日～)、乳腺外来(21年10月1日～)、循環器内科新患外来(21年6月15日～)を新たに開始しました。医療事務補助者については、20年度の5名体制を21年8月から10名体制にしました。
2	がん診療の充実	がん診療の体制を整備し、放射線治療や化学療法の受け入れ患者数を拡大する。また、緩和ケアの専任者を育成する。	21年度～	B	がん化学療法室狭隘のため9床体制を7床に減床し、11月30日から午前みの1部制を午前午後の2部制にしたことにより、実患者数は197人となり前年度に比べ49人増加しました。緩和ケアの認定看護師は、研修を終了し受験資格まで取得しました。
3	放射線治療の開始	放射線治療機器を導入し、患者受け入れを行う。	20年度～	B	21年度は、治療実患者数が161人で前年度に比べ59人増加し、収益も32,807千円で前年度に比べ12,256千円増加しました。治療医は、大学病院から毎週1回来院する非常勤体制が継続しており、常勤医師の配置を大学に求めています。
4	助産師外来の開始	正常な妊娠経過をたどっている妊婦を対象に助産師が健診や保健指導を行い、助産師の専門性を生かしたきめ細やかなサービスを行う。	21年度～	A	21年4月から継続し助産師外来を行っています。経験豊かな助産師が担当し、安心して出産できるよう妊婦さんと信頼関係を築くようにしています。妊婦検診の内容は、エコー、計測、検尿のほか日常生活のアドバイス(母乳栄養、子宮収縮、体重、食生活、マイナートラブルなど)、入院のしおり(バースプランの説明、回収など)などです。なお21年度の受診者は592人となっています。

5	専任看護師の配置	医療の高度化のため専門の教育を受けた専任看護師を配置する。医療安全、感染対策、褥そう管理、緩和ケアほか。	20年度～	B	21年度は、「皮膚・排泄ケア」分野について専任配置しました。ストーマケア、創傷ケア及び失禁ケアのため、患者や看護師への指導に当たっています。
6	救急医療体制の強化	薬剤師の勤務に宿日直を導入し、24時間調剤できる体制を確立する。	21年度～	B	2次救急を担う医療機関として医師の体制を厚くするため、正規の宿日直医師のほかに臨床研修医を副直として配置しています。また薬剤部では21年4月から薬剤師2名を採用し、24時間調剤体制を開始しています。さらに、放射線技術科においても22年度内の24時間体制開始に向け調整中です。
7	リハビリテーション体制の強化	療法士の増員と言語聴覚士を新たに配置する。 (20年度当初:理学療法士6・作業療法士1)	20年度～	B	22年3月からの言語聴覚士1名の配置により、音声機能、言語機能、摂食・嚥下機能、又は聴覚に障害のある者に対し、その機能の維持向上を図ることと言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導に当たっています。
8	地域医療連携ネットワークシステムの拡大	現在17医療機関であるが、これを拡大し地域の医療機関との連携を強化する。	20年度～	B	接続医療機関数の推移は20年度17医療機関、21年度20医療機関、当システムでの紹介患者数の推移は20年度87名、21年度186名となります。 PRとしましてはホームページ、連携だよりに掲載しております。また病院長、地域医療連携室長が会合等でPRを実施しております。

【収入の増加】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
9	7:1看護体制への移行	看護師増員して、手厚い看護を実現する。	20年度～	A	21年度は、病棟看護師を22年3月末現在 正規職員226名、嘱託職員7名とし、前年度末と比較し正規職員を14名増員し、看護体制の充実を図りました。
10	小児入院管理料2の算定	小児科専門病棟と看護配置増。	20年度～	A	20年7月から適用を開始しています。21年度の対象患者数は7,760人で、効果額は47百万円と見込みました。 ※現在の名称は『小児入院医療管理料3』です。
11	入院時医学管理加算の算定	急性期医療を提供する体制や医師の負担軽減の体制等を評価する入院時医学管理加算の算定を開始する。	21年度～	A	施設基準の届出条件をクリアするため、21年4月から薬剤師の当直を開始しました。また一番難しいと考えられた治癒率等の40%については、各診療科の医師の協力を得て退院時逆紹介の推進やカルテの点検強化を行い達成することができました。 21年8月から料金の算定を開始しています。 ※現在の名称は『総合入院体制加算』です。
12	特定集中治療室管理料の算定	重症の患者への集中的な医療の提供体制を評価する特定集中治療室管理料の算定を開始する。	21年度～	C	21年度における集中治療室における入院患者数は、2,003人で1日平均では5.5人となり10床に対し、6割以下の利用となっており、管理料の算定に当っては看護師の増員を要し、マンパワーの余剰は生じることから当面は、病棟看護師を優先した確保に努めます。

13	DPC請求の開始	DPC請求への移行に合わせ、診療内容の分析・比較を通じた医療の標準化を図り、収入費や経費節減に結びつける。	21年度～	A	21年4月から厚生労働省の承認を得て料金請求を開始しています。 20年11月にはDPC分析ソフトを導入し、他の医療機関との比較しながら診療内容を見直し、医療の標準化、経費節減、収入の増加に努めました。この結果平成21年度は出来高と比べDPC請求を行った料金が3.4%の増となりました。
14	人工透析の拡大	急性期の透析に取り組み、設備の稼働率を高める。	20年度～	A	20年度は年間4,792件でしたが、21年度は年間6,263件で1,471件、率にして30.7%と大幅な増加となりました。なお、病床に対する稼働率は20年度は38%、21年度は50%となっています。 また外来の実患者数は20年度末の28人に対して21年度末では38人に増加しています。
15	査定対策の充実	査定対策委員会の活動を強化し、増収を図る。	20年度～	B	委員会活動を通してすべての部門が協力して査定対策を実施しました。査定率(金額ベース)は19年度0.74%、20年度0.58%、21年度は0.41%と改善していますが、道内主要公立病院の平均が0.33%であることから、まだ少し高い状況にあります。

【経費の節減】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
16	職員給与の適正化	国家公務員と異なる支給となっている手当の見直しを行う。		C	21年度は、国家公務員と比較して支給額の高い住居手当・通勤手当等の是正に向けて労働組合と交渉を行いました。市全体としては市営バスの民間委譲や給与独自削減の継続を最重要課題とし、それらの合意を優先させました。その結果、手当等の是正については、冬季(12～3月)のみ支給していた通勤距離が1.5～2kmの通勤手当の廃止のみ合意となり、22年4月から実施しています。

17	診療材料費の削減	診療材料の価格交渉に専門業者のノウハウを活用し、診療材料費を削減する。	20年度～	A	21年度については、手術の際の止血関連材料である縫合器・吻合器とロッキングスクリュー等の整形外科関連について取り組みを行いました。その結果、止血関連材料は、20年度使用数量換算で約2.7百万円の削減、整形外科関連においては同数量換算で約14百万円の削減効果がありました。診療材料費全体としては前年度比で52百万円減少しています。
18	後発医薬品の採用拡大	後発医薬品の採用を計画的に総購入額の10%まで拡大する。	21年度～	B	DPC請求を踏まえ造影剤、抗菌剤、抗がん剤などの注射薬を中心に後発医薬品の採用を行っています。21年度の購入金額は8千万円で薬剤総購入額の7.7%となりましたが、目標には達しませんでした。経営効果額は当初の見込み額より12百万円の増となる52百万円となりました。
19	光熱水費を削減	発電量と買電量の配分を見直すほか、省エネの取り組み。	20年度～	B	コージェネや空調機等の運転方案の変更見直しにより、総電力使用量は前年比-3.8%(-250kw)となり、同時にガス使用量についても、前年比-6.2%(-76千m ³)となりました。ガス発電電力単価が上昇し、購入電力単価が下降したため、20年度で購入電力の割合が55.6%であったものを、21年度は57.7%とその比率を上げ、コスト低減を図りました。これらの結果、光熱水費全体で5百万円ほどの削減効果額が生じました。
20	産業廃棄物処分手数料を削減	感染性医療廃棄物の分別見直しにより、処分手数料を削減。	20年度～	C	21年4月末にVRE院内感染が発生したことを受け感染対策の強化に伴い感染性廃棄物発生量が大幅に増えました。このため、21年9月より費用削減への取り組みを実施し、取り組み前に比較し、2割弱の削減に成功しました。院内感染の経験から、標準予防策のレベルアップを引き上げたことにより発生量の削減は難しい状況から今後は分別の徹底や廃棄方法の見直しが削減対策となります。

21	コスト意識の醸成	病院の経営情報を職員が共有するため、定期的に経営ニュースを発刊し、コスト意識を高める。	21年度～	B	21年8月及び22年3月の2回「財務通信」として予算や決算等に関する情報を職員に周知しました。周知方法は、院内メールボックスにより紙面として配布したほか、院内ポータル画面上のインフォメーションの機能を活用し、多くの職員の目に触れるようにしました。発行回数を増やすことが今後の課題と考えています。
----	----------	---	-------	---	---

【患者サービスの向上】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
22	患者意見の反映	ご意見箱等に寄せられた患者さんの意見とこれに対する病院の回答をホームページ等で公表する。	20年度～	A	ご意見箱は継続しており、毎月回答を1階ロビー掲示板及び当院ホームページで公表しています。回答するだけでなく、ご意見を検討し業務改善につなげています。ホームページでは過去分を含めて閲覧できるようにしています。
23	患者満足度調査の継続実施	患者満足度調査や待ち時間調査を定期的実施し、サービス向上に結びつける。	20年度～	A	20年度に引き続き、21年12月に「外来待ち時間・満足度調査」を、22年2月に「入院満足度調査」を実施しました。回答を検討し、業務改善につなげています。22年度も実施する予定です。

24	接遇研修の実施	患者サービス向上のため、委託業者の職員を含めた接遇研修を定期的実施する。	20年度～	B	20年11月接遇改善部会を設置し、21年度では委託事業所を含めた接遇研修会を5回実施し、延424人の参加を得ました。また、21年5月に身だしなみに関するアンケート調査を、22年2月には接遇に関するアンケート調査(自己評価)を実施いたしました。さらに21年度において、接遇マニュアル作りを進めており、22年度全職員(委託事業所含む)に配布する予定であります。将来的にはこの接遇マニュアルに基づいた院内巡回の実施も視野に入れて取り組んでいるところです。
25	病院広報誌の発行	病院と患者さんのコミュニケーションの一助として病院広報誌を定期発行する。	21年度～	B	22年3月、病院広報誌「みんなの市立病院」No.001を発行いたしました。院内においては、患者さんやご家族向けに外来の受付や各病棟のカウンターなど各所に設置し、院内メールボックスを通して各所属職員や委託業者に周知しています。院外には「連携だより」と共に地域の医療機関に送付しています。

【人材の確保】

項番	項目	内容	目標年次	苦小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
26	医師確保の取り組み	医師の負担軽減や勤務条件の改善を図り医師の確保に努める。	20年度～	A	21年4月1日現在の医師数は、68名で(うち初期研修医は9名)前年同月に比べ8名(うち研修医1名)増加し、年々増加傾向にあります。救急の当直医師の負担軽減措置として、「コンビニ受診の抑制」PRや苦小牧市夜間・休日急病センターの新施設での開院に伴い一次救急患者の減少が大きな効果となりました。また、初期研修医や若い医師が増員したことによりマンパワーとなり、職場の活性化に大きく寄与しています。

27	看護師確保の取り組み	採用試験の適宜実施や病院見学会、就職説明会の実施などにより看護師確保に努める。	20年度～	B	20年度より採用試験を年5回実施、病院見学会を毎月1回実施(参加者希望者がいない場合は中止)、苫小牧看護専門学校をはじめ、胆振日高管内の学校訪問により就職説明会を実施しています。21年度は、正規看護師の退職者15名に対し、28名の採用ができました。
28	医師の事務負担を軽減	医療事務補助者を採用し、外来部門への配置	20年度～	B	20年度の医療事務補助者5名を、21年8月から10名体制に増員し、医師の負担軽減に努めました。全診療科への配置とありませんが、現状では医師の新たな要求が少ない状況にあることから、ニーズに応じた円滑な配置に努めます。
29	院内保育所の24時間化	女性職員の勤務継続を支援するため、院内保育所を24時間化する。	21年度～	A	21年4月より24時間保育、日・祝日の開園および学童保育(小学生)を実施しています。定員50名で事務職員を除く病院職員の児童を対象に受入れしております。開園時間は、原則7:30～19:30で、週2日を24時間保育の日としております。21年度利用実績は、24時間が延24人、学童保育が延136人となっています。
30	研修の強化	医師・看護師をはじめとする医療スタッフの専門性を高めるため、外部研修や学会への参加を拡大する。	20年度～	B	職員の研修参加については、経費旅費、治験費、研究研修会費等により実施しているところです。なお、医師については1人につき年1回の道外学会出席旅費を確保しているほか、看護部、医療技術部、各種委員会にも予算の範囲内で配当をしております。

31	事務プロパー職員の採用検討	専門性を必要とする病院事務職員のプロパー採用を検討する。	20年度～	B	21年度は、新たな配置を行いませんでしたが医療ソーシャルワーカーの22年4月採用に向けた準備を進めました。今後も事務部門の人事異動のタイミングを見ながらプロパー採用の検討を行います。
----	---------------	------------------------------	-------	---	---

【経営体制の強化】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
32	地方公営企業法の全部適用を検討	IV 経営形態見直しに係る計画に記述	21年度～	A	21年度の経営改革評価委員会において、「地方公営企業法の全部適用」の是非について協議を行い、検証を行った結果「地方公営企業法の一部適用」を継続するとの結論となり、評価報告書として市長に提出されました。22年2月、市長・副市長等で構成する政策会議において、委員会の報告に基づき「一部適用を継続する」との意思決定が行われました。
33	組織の見直し	効果的・効率的な病院運営を行うための組織見直しを行い、経営健全化に結びつける。	21年度～	B	21年4月から医局に属していた医療技術部門を切り離し医療技術科を新設しました。医療情報部門や医療安全・感染対策、事務部門のスタッフ制の導入が検討課題です。

経営改革プラン 21年度実績・病院自己評価(各年度の収支計画)

【収益の収支】

(単位:千円)

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	差引き	22年度計画値	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
										評価	コメント
1	病院事業収益	7,842,057	8,369,949	8,398,352	8,785,196	9,036,568	251,372	8,943,258	9,022,700	A	計画値より大幅に上回りました。
2	医業収益	7,295,106	7,604,936	7,624,666	8,030,009	8,287,089	257,080	8,194,963	8,226,855	A	計画値より大幅に上回りました。
3	うち入院収益	5,069,294	5,247,807	5,255,171	5,596,683	5,625,144	28,461	5,681,829	5,713,721	B	計画値より上回りました。
4	うち外来収益	1,864,089	1,923,973	1,944,748	1,974,511	2,176,902	202,391	2,054,319	2,054,319	A	計画値より大幅に上回りました。
5	医業外収益	512,218	592,321	600,994	582,495	576,787	△ 5,708	575,604	556,089	C	計画値より下回りました。
6	特別利益	34,733	172,692	172,692	172,692	172,692	0	172,691	239,756	B	計画どおりの結果となりました。
7	病院事業費用	9,120,310	9,856,061	9,785,840	8,860,393	9,203,713	343,320	8,733,482	8,659,452	C	計画値より大幅に上回りました。
8	医業費用	8,208,186	8,521,312	8,457,849	8,515,249	8,871,817	356,568	8,397,417	8,336,103	C	計画値より大幅に上回りました。
9	うち職員給与費	3,841,978	3,913,911	3,899,712	3,952,555	4,212,054	259,499	3,852,555	3,852,555	C	計画値より大幅に上回りました。
10	うち材料費	2,123,383	2,144,397	2,137,197	2,103,900	2,130,702	26,802	2,114,827	2,123,426	C	計画値より上回りました。
11	医業外費用外	481,068	322,146	322,895	323,644	306,089	△ 17,555	314,565	301,849	B	計画値より下回りました。
12	特別損失	431,056	1,012,603	1,005,096	21,500	25,807	4,307	21,500	21,500	C	計画値より上回りました。
13	経常収支	△ 881,930	△ 646,201	△ 562,893	△ 226,389	△ 313,199	△ 86,810	58,585	144,992	C	計画値より悪化しました。
14	当年度純損益	△ 1,278,253	△ 1,486,112	△ 1,386,522	△ 75,197	△ 166,314	△ 91,117	209,776	363,248	C	計画値より悪化しました。
15	利益剰余金又は累積欠損金(△)	△ 4,570,667	△ 6,056,779	△ 5,957,189	△ 6,131,976	△ 6,123,503	8,473	△ 5,922,200	△ 5,558,952	B	計画値を若干上回りました。

【資本的収支】

(単位:千円)

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	差引き	22年度計画値	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
										評価	コメント
16	資本的収入	852,360	1,631,207	1,629,707	704,747	712,347	7,600	796,917	676,909	B	計画値を上回りました。
17	うち企業債	425,200	998,100	996,600	28,500	27,100	△ 1,400	100,000	100,000	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。
18	うち他会計出資金・負担金	427,090	610,393	610,394	676,247	676,247	0	696,917	576,909	B	計画どおりの結果となりました。
19	資本的支出	1,329,318	1,009,984	1,005,495	1,069,585	1,075,933	6,348	1,166,292	1,175,714	B	計画値を上回りました。
20	うち建設改良費	435,904	70,273	65,784	34,500	40,849	6,349	103,000	103,000	B	計画値を上回りました。
21	うち企業債償還金	893,414	939,711	939,711	1,035,085	1,035,084	△ 1	1,063,292	1,072,714	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。
22	収支差引	△ 476,958	621,223	624,212	△ 364,838	△ 363,586	1,252	△ 369,375	△ 498,805	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。

【単年度資金収支ほか】

(単位:千円)

項番	項目	19年度 実績値	20年度 見込値	20年度 実績値	21年度 計画値	21年度 実績値	差引き	22年度 計画値	23年度 計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
										評価	コメント
23	単年度資金収支	△ 1,123,777	423,499	525,116	28,618	△ 62,906	△ 91,524	296,145	250,274	C	計画値より悪化しました。
24	累積資金収支	△ 1,557,173	△ 1,133,674	△ 1,032,057	△ 1,105,056	△ 1,094,963	10,093	△ 808,911	△ 558,637	B	計画値を若干上回りました。
25	一般会計繰入金	914,793	1,333,303	1,333,303	1,402,361	1,402,361	0	1,416,139	1,343,681	B	計画どおりの結果となりました。

【その他】

項番	項目	19年度 実績値	20年度 見込値	20年度 実績値	21年度 計画値	21年度 実績値	差引き	22年度 計画値	23年度 計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
										評価	コメント
26	経常収支比率%	89.9	92.7	93.6	97.4	96.6	△ 0.8	100.7	101.7	C	計画値より悪化しました。
27	職員給与対業務収益比率%	52.7	51.5	51.2	49.2	50.9	1.7	47.0	46.8	C	計画値より悪化しました。
28	材料費対業務収益比率%	29.1	28.2	26.7	26.2	24.5	△ 1.7	25.8	25.8	A	計画値より大幅に改善しました。
29	資金不足比率%	21.3	14.9	13.2	13.8	10.7	△ 3.1	9.9	6.8	B	計画値より改善しました。
30	患者数人	119,877	118,938	119,958	119,500	120,903	1,403	120,700	121,400	A	計画値より大幅に上回りました。
31	入 1日当たり患者数人	328	326	329	327	331	4	331	333	A	計画値より大幅に上回りました。
32	入院病床利用率%	86.6	86.2	86.9	86.6	87.6	1.0	87.5	88.0	A	計画値より大幅に上回りました。
33	診療単価円	42,287	44,122	43,807	46,834	46,525	△ 309	47,074	47,074	C	計画値より下回りました。
34	患者数人	236,381	224,474	224,039	227,500	224,619	△ 2,881	236,700	236,700	C	計画値より下回りました。
35	外 1日当たり患者数人	969	920	918	936	928	△ 8	970	970	C	計画値より下回りました。
36	診療単価円	7,885	8,571	8,679	8,679	9,690	1,011	8,679	8,679	A	計画値より大幅に上回りました。

苫小牧市立病院経営改革プラン評価基準表

経営改革プランの進捗状況に対する評価は、A～Eの5段階評価で、それぞれの評価基準は次のとおりです。

評価	評価基準
A	プランの目標値を余裕をもって達成し、ある程度の附加価値が生じた。
B	プランの目標値は達成した。
C	プランの目標達成に向けて取り組みはしているが、現状未達成である。
D	プランの目標達成に向けて取り組めていない。
E	検討されていない。